

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 30 年 10 月 7 日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791200039		
法人名	株式会社カメラヤ・プランニング		
事業所名	グループホームつばき		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉南郡熊取町大久保東一丁目7番13号		
自己評価作成日	平成30年7月20日	評価結果市町村受理日	平成30年10月25日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1278番地の2
訪問調査日	平成30年9月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

J R 阪和線熊取駅から徒歩10分の閑静な住宅街にグループホームつばきがある。3階建ての建物の2階3階が当事業所で1階は高齢者専用住宅となっており、行事の時などは1階の利用者様との交流も行っている。手作りおやつや童謡の合唱など、利用者様に合わせてレクリエーションを提供している。また、週1回のドライブでは季節を肌で感じて貰えるように支援している。  
徒歩数分の所には煉瓦館と呼ばれる交流センターがあり、利用者様は職員と一緒に桜の季節にはお花見を楽しむことや、秋のお祭りではだんじりを観ることができる。館内で催しのある期間は散歩を兼ねて参加している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所では、つばきグループの企業理念の他、事業所理念として「その人らしさを尊重して、安心して暮らせるグループホーム」、「地域との関わりを大切にするグループホーム」、「寄り添う介護・支援のできるグループホーム」がある。地域密着型サービス事業所として、職員が話し合っって作り上げた理念である。これらの理念は、新人研修は元より、日頃から職員に周知し、日々実践に向けて取り組んでいる。

また、独自の取り組みとして、入社の際に、新人研修に加えて、介護に関する知識を問うための試験を実施している。合格点に達しなかった場合は、管理者による指導と再試験が課せられ、これから介護・支援を行う者としての自覚を高めるための取り組みとして定着している。

入浴については、これまでは1階の天然温泉のある大浴場での支援を中心としてきたが、転倒等の怪我のリスクが高まったり、浴場までの移動距離が長く、入浴を拒否する利用者が増加するなどのデメリットが目立つようになった。そこで職員の発案により各ユニットの個浴への対応に切り替えた。これにより、入浴を拒否する利用者が減少したり、移動距離や移動時間の短縮が実現するなど改善が見られ、より良い支援に繋がっている。

また、外出については、近隣の煉瓦館や毎週土曜日の午後1時から1～2時間程度のドライブ外出を行っており、毎回7名の利用者に支援している。各利用者については2週間に1回はドライブを楽しめている。行き先は利用者の希望で、海や泉南市のイオンモール、奥水間など馴染みのある場所や季節に応じた場所などを巡り、利用者の楽しみの一つとなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示し、職員への周知及び理解を求め、サービスの質の向上に努めている。	開設時に職員が話し合っ作成した事業所理念がある。理念は玄関ホールと各階の事務所内に掲示している他、事業所パンフレットに掲載している。新人研修は元よりミーティング時などに職員間で理念の確認を行い、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時に地域の方たちと挨拶を交わしたり、秋祭りの時は施設の敷地内から地域の方たちと一緒に見学したり、認知症カフェへの参加で地域の方々との交流を図っている。	自治会には加入していない。煉瓦館への散歩の際や敷地内の清掃活動の際に近隣住民と挨拶を交わしている。だんじり祭では事業所の敷地が絶好の見学スポットとなっており、地域の人たちとの交流を図る場になっている。また、3ヶ月に1回の頻度で地域で開催される「ひまわりカフェ（認知症カフェ）」にも毎回利用者が参加しており、楽しみの一つになっている。	地域との日常的な交流の機会を図るべく、散歩や買い物などの近隣への外出の機会を増やすことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	つばき新聞を発行し、地域に発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢介護課・地域包括担当者・地域代表者・家族様・利用者様が出席し、行事、ひやりはっと、事故報告、施設の情報提供を行い、要望意見を聞いてサービス向上に努めている。	運営推進会議は奇数月（年6回）に開催している。熊取町担当課職員、地域包括支援センター職員、地域代表者、介護者家族の会会長、入居者家族等が参加している。利用者家族全員に会議への参加を呼びかけている。会議では利用者の暮らしぶりや利用状況、行事内容などの情報提供を行ったり、参加者から様々な提案を受けている。会議の内容は議事録にまとめ、職員全員に回覧しており、意見等をミーティングで話し合い、サービスの向上に活かせるよう努めている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議で利用者の情報や空室状況を報告している。その他電話やFAXでの情報交換を行っている。</p>	<p>運営推進会議で様々な助言をもらっている。また、日頃から電話やFAXで情報交換を行っている他、時には町の担当者が書類を届けに来所するなど、事業所と町との協力関係が築けるよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者様契約の重要事項説明書10に「身体拘束その他入居者の行動を制限する行為を行いません」を記載している。職員にも身体拘束マニュアルの研修を行い周知している。利用者の安全のため玄関の施錠をしている。外出希望の利用者様には職員と一緒に外出している。</p>	<p>法人全体での勉強会で身体拘束に関する研修会を実施している。参加できなかった職員については、ミーティング時に伝達研修を実施し、身体拘束をしないケアにつなげている。各ユニット出入口と1階玄関は安全を優先して施錠している。外出願望のある利用者については、職員と一緒に外出することとしている。</p>	<p>職員の配置を工夫するなど、鍵をけない暮らしの実現に向けて、更なる取り組みに期待したい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内で虐待防止に関する研修を行い意識を高め防止に努めている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員全員が学習会に参加するのは難しいため資料を回覧し、レポートを提出して学ぶ機会を設けている。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書及び重要事項説明書においては内容を十分説明し質問や意向を聴き対応し理解して頂いた上で契約を交わし入居後にトラブルがないように努めている。</p>	/	/
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会時に家族様から意見や要望を聴く機会を設けている。また職員一人ひとりが家族様から意見や要望を気軽に話して頂けるような雰囲気作りをし、サービスの向上や改善に努めている。</p>	<p>利用者家族のほぼ全員が1~2ヶ月に一度は来所しており、その際に、運営等についての意見や要望を聴き取っている。電話での連絡時に聴き取ることもある。意見や要望等は新たに作成した「ご意見ノート」に記入し、全職員で情報を共有している。これにより、入浴の機会を増やす取り組みを行うなど、運営の改善に努めている。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映          代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員の意見や提案をいつでも聴ける環境作りをしている。また企画・提案書の提出を積極的に行っている。2ヶ月に1回の福祉部会で意見を反映させている。</p>	<p>管理者は、平素から職員が話しやすい雰囲気づくりを大切にしている。またスタッフ会議や朝の申し送り時などに、職員の意見を聴いている。職員の意見等は、本社で開催している福祉部会で代表者を交えて話し合っている。日々の食事や入浴、レクリエーションなど様々な面で運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備          代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の人事考課を行っている。勤続年数や資格などの手当てを設け、職員が意欲や向上心を持って勤務できる職場作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み          代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一年を通して社内研修と個別研修を行い意識向上に努めている。また社外での研修参加を促進している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>認知症カフェへの参加などで同業者と交流する機会はあるものの、ネットワークづくりや勉強会の機会はない。</p>		
<p><b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを開始する前にゆっくり時間をかけて面談を行い、生活歴や趣味などの情報把握に努め、不安や心配事や要望・意見に傾聴し、より良く信頼関係を築いていけるように努める。</p>		

16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族様から不安なこと、要望は職員一人ひとりが周知し、随時対応させて頂いている。また入居後の利用者様の様子を家族様に報告し、安心して頂けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者様や家族様の意向に沿ったサービス提供ができるように、他施設の利用も考慮して対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様一人ひとりのADL等を考慮しながら洗濯物を干したり、たたんだりなど、日常生活のできる事を職員と一緒にさせて頂き、やりがいや楽しみを持って暮らして頂けるように支援している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様が面会に来られた時に施設での生活の様子を伝え、情報を共有し意見を頂き、共に利用者様を支えていく関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>週1回のドライブの際や家族様との外出の時に馴染みの場所を通ったり、施設に馴染みの知人の方がいつでも気軽に面会に来て頂けるような環境作りに努めている。</p>	<p>毎週土曜日の午後の1時間程度、利用者の要望に応じて、海や奥水間など日頃行けない色々なところにドライブに出かけている。時には以前住んでいた家を見に行くこともある。また、利用者の知人の来所を快く迎えたり、手紙と一緒に書いて送るなど、馴染みの人や場との関係が途切れないような支援に取り組んでいる。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションの参加を促し、日々の生活の中で利用者様同士が声掛け協力して過ごして頂けるよう見守り支援を行っている。</p>		

22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院退所となった利用者様の面会に行き、相談にのっている。</p>		
<p>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
23	<p>9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のコミュニケーションの中で利用者様の言葉に傾聴して思いや希望に沿えるように努めている。</p>	<p>日頃の支援の中で、職員は利用者寄り添い、コミュニケーションを通じて思いや意向を聴き取るように努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、利用者の表情などから把握することが多い。聴き取った思い等は日報に記録し、職員間で共有している。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>利用者様とのコミュニケーションや家族様からの情報を職員間で共有し、利用者様一人ひとりに合わせた生活環境やケアを提供できるように努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個別の記録表にバイタルチェックや食事・水分摂取量、排泄表の記録を行い現状の把握に努めている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>状態の変化がみられた時は早急にケアカンファレンスを行い、家族様と連絡をとり、現状に即したケアができるように計画の見直しをしている。</p>	<p>介護計画は、6ヶ月ごとに担当者会議を開催し見直しを行っている。状態に変化があった場合はその都度見直しを行っている。担当者会議には、主にケアマネジャー、担当職員、家族が参加して開催している。家族が参加できない場合であっても、日頃より家族や利用者の希望等を聴き取っているため、家族や利用者の意向を反映した介護計画を作成している。</p>	

27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者様の日々の様子や気づきを個別ノートや業務日誌に記入し職員間で申し送りをし、情報を共有しより良いケアができるように努めている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>就寝時間や入浴時間など利用者様の体調やリズムに合わせてできる限り答えるように取り組んでいる。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>協働していない。</p>		
30	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>地域の内科の往診を受けている。また希望により従来のかかりつけ医を受診されたり、他科受診は利用者様と家族様の希望されているところを受診されている。</p>	<p>事業所では、月2回（第2・4月曜）、協力医療機関の医師（内科）による往診があり、その利便性から、ほぼ全ての利用者が、利用開始時にかかりつけ医を変更している。他科の受診については緊急性のない場合を除き家族が同伴している。往診内容については変化がなければ家族への通知は行っていない。他科受診では、家族から受診内容を聞き取っている。診察情報は個人記録に記録し、職員間で共有している。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護の24時間緊急体制を整え、週1回の定期訪問看護で日常の体調の変化を報告し健康管理に努めている。</p>		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時や入院中に家族様を通じて病院側の治療方針の連絡を受けている。また入院中も面会に行き、看護師と情報交換を行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化や終末期に向けた方針を十分説明している。利用者様の体調の悪化など状態に変化がおこった場合は家族様に報告し話し合いを行っている。</p>	<p>利用開始時に、事業所が作成した指針により事業所としての看取りは行わない旨の対応方針を説明している。しかし、重度化や終末期を迎えることになる家族には、事業所が作成した「重度化、急変時等についての意思確認書」により延命措置を希望するか否かの判断を促し、同意を得ている。</p>	<p>事業所の対応指針では、看取りは行わない方針である。しかしながら、今後事業所で看取ってほしいという利用者や家族の期待に応えていくためにも、職員への研修の機会を設け、協力医療機関等との連携を模索しながら、チームとして自信をもって看取りが行えるような体制の構築を期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>資格取得時やこれまでの経験等で知識は得ているが、定期的な訓練は行っていない。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回消防署の指導のもとで昼夜の避難訓練を行っている。災害時に備蓄品を常備している。</p>	<p>年に2回の防災訓練を行っており、そのうち1回は消防署員立会いの下で夜間を想定した訓練を実施している。災害マニュアルを作成しており、備蓄については利用者と職員分を合わせて、お粥、水や缶詰など概ね3日分を建物3階に用意している。災害時には本社給食センターが、災害対応メニューを作成し、災害時であっても利用者に十分な食事の提供ができるような体制を敷いている。近隣住民に対しては、災害時に救助に駆けつけてもらえるよう、日頃から声掛けを行うなど、協力体制の構築を図っている。</p>	



#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報やプライバシー保護について社内研修を行っており、職員も利用者様の誇りやプライバシーを損なわない様に意識し、利用者様一人ひとりに合わせた言葉かけや対応に努めている。</p>	<p>年に1回（5月）、本社研修で個人情報とプライバシー保護についての研修を実施しており、管理者が受講している。研修内容は、ミーティング等の際に、管理者から事業所職員に対して、伝達研修を行い、研修内容の周知に努めている。利用者の個人記録等については、事務所内の鍵付書庫で厳重に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中でその都度希望や思いを受け止め自己決定できるように支援している。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活の中で個々の希望に沿う事は難しい時もありますが、できる限り本人のペースに合わせ満足して頂けるように心掛けている。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節に合った利用者様の好きな服を職員と一緒に選んで頂いている。月に1回の訪問理容の際も利用者様の希望を聞いて散髪して頂いている。</p>	/	/
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様一人ひとりに合わせた食事形態や分量で提供している。また個人の能力に合わせて食事前のテーブル拭きなどできることをお手伝いして頂いている。</p>	<p>食事は、本社給食センターが1ヶ月ごとにメニューを作成し、それに基づいた食事を提供している。事業所内では、各ユニットでみそ汁やご飯を炊く他、利用者の状態に応じて刻み食やお粥を作っている。月に1回、刺身を提供しており、利用者から好評を得ている。利用者の好みや希望がメニューには反映しておらず、利用者が食べ残した量を給食センターに報告し、メニューの作成に活かしている。また、利用者は当番制で調理や後片付けを職員と一緒にやっている。利用者の食事中、職員は食事をせず、利用者を見守ったり、食事の介助を行っている。</p>	<p>今後、メニュー作成時に利用者の希望を取り入れたり、またバイキング形式の食事の提供や定期的な外食の機会など、利用者がより一層食事を楽しめる多様な食事スタイルを提供していくことに期待する。また、職員と利用者が仲良く食事を共にしたり、職員と一緒に外食の機会を設けて、さらに食が楽しいものになるよう改善に期待する。</p>

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援      食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時ごとに食事量、水分摂取量を記録している。給食センターでバランスを考えたメニューや糖尿食や減塩食の提供も行い個々に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持      口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に利用者様の能力に応じた口腔ケアを行っている。週1回歯科衛生士による口腔ケアも実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援      排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表で利用者様それぞれの排泄パターンを把握しトイレ誘導の声掛けをさせて頂いている。できる限りトイレでの排泄が出来るように支援している。</p>	<p>排泄については自分でトイレに行く利用者が多い。利用者ごとに排便、排尿チェックシートを作成し、利用者の排泄パターンを把握している。便秘が続く利用者には医師が処方している薬を服用してもらい、排便コントロールを個別で行えるよう支援をしている。排便の際にはプライバシーに配慮し、それとなく便の状態を本人に尋ねたり、トイレから退出後すぐにトイレ内の確認をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応      便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックを行い便秘がちな方に対しては水分補給を促し、医師や看護師の相談のもと緩下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援      一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者様の体調や希望を考慮して週2～3回の入浴を行っている。また便失禁などあった場合は清潔保持のため、その都度シャワー浴を行っている。できる限りプライバシーに配慮して、入浴の時間は利用者様に楽しんで頂けるように支援している。</p>	<p>原則として週に2回、午前中を入浴時間としている。希望により週に3回の入浴も可能である。入浴中、浴槽には絶えず新しい湯を継ぎ足しており、利用者ごとの湯の入れ替えはしていない。また、季節に応じてゆず湯を提供するなど入浴が楽しいものになるような工夫をしている。排泄に失敗するなど汚れが多い時にはシャワー浴での対応を行っている。入浴を拒む利用者には入浴時間の変更や声掛けする職員を変える等の工夫をしている。最近までは天然温泉のある1階大浴場での入浴支援が中心であったが、浴室を各ユニットにある個浴に変更した。これにより入浴を拒否する利用者が減少したり、移動距離や移動時間の短縮等、一定の成果が上がっている。</p>	

46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床、消灯時間は決まっているが、その日によって好きなテレビ番組などがある日などはいつもより長く起きていたり、利用者様のペースに合わせてお休み頂けるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々のカルテに薬剤情報を綴っており、全職員が閲覧確認し理解している。薬の変更や臨時薬が処方された場合は申し送りを行い職員全員が把握できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物干し、洗濯物たたみや花の水やり、食器拭き等、利用者様のできる事を無理のないようにして頂けるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の希望に沿って日常的な外出はできませんが、週1回のドライブや秋祭り、お花見などの行事や、家族様との外出を支援している。</p>	<p>毎週土曜日の午後1時から2時まで、ドライブによる外出を楽しんでいる。毎回7名のグループで出かけているため、各利用者は概ね2週間に1回は、この外出ができるように支援している。利用者の馴染みの場所やその時節に合った場所へ出かけている。春には、岸和田市や泉佐野市の桜の名所へ花見に行ったり、1ヶ月に1回程度、近くのキリン堂や煉瓦館に出向いたり、毎週木曜日に職員と一緒に買い物に出かけている。</p>	<p>職員の配置等に工夫を行い、利用者の体調に配慮しながらも、年間を通じて、日常的に近くを散歩したり、買い物に出掛ける等、外出の頻度を増やしていけることを望む。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族様よりお小遣いを預かり管理させて頂いている。利用者様の希望や必要に応じて出金させて頂いている。</p>		

51		<p>○電話や手紙の支援          家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様から家族様に電話をされたり、家族様からの電話や手紙の取次を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり           共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は毎日掃除を行い、天候や時間帯に合わせて空調光・テレビや音楽の音量調節に配慮している。各テーブルには、施設の庭で咲いている季節の花を飾り、和むスペース作りを心掛けている。また利用者様が製作した季節の壁飾りやレクリエーションやドライブに行った時の写真を飾っている。</p>	<p>利用者は日中共用空間である食堂兼リビングで過ごすことが多い。壁には、行事の写真や利用者が作成した花火の貼り絵やカレンダーを飾っていたり、季節に応じた作品展示を行っている。利用者が好む音楽やBGMを流すなど、リラックスして過ごせる雰囲気を作り出している。食堂兼リビングから直接出入りできるテラスには、テーブルや椅子を設置しており、外気に触れ、草花に触れたり、おやつ時間を過ごす等、気分転換が図れるような空間を確保している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり          共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室やリビングのソファ・テラス等自由にくつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮          居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者様や家族様の希望に合わせた家具を入れて頂き、思い出の物品や写真を飾り心が落ち着く環境作りをしている。また安全に配慮して家具の配置に工夫している。</p>	<p>利用者の居室は毎日職員が清掃し、清潔を維持している。ベッドとエアコン以外は、タンス等の家具や写真、カーテン、ぬいぐるみ等、利用者や家族が自由に持ち込んでいる。衣替えや部屋の模様替えなどは、利用者と家族で自由に行っている。シーツの交換は週に1回、居室の清掃担当者が行っている。各居室内のエアコンのリモコンは、安全面を優先して事務所で保管し、職員が設定温度等の調整をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり          建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内、トイレ、浴室には安全面に配慮して手すりを設置している。職員が見守りを行いながら利用者様個々の身体状況に合わせて安全で自立した生活が送れるように支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない